

三太郎旅日記 part2

＜其の1＞三太郎 伊豆へ

午前5時に起床。ラジオをつける、いつもの歌謡曲を聞いて7時頃まで布団の中で過ごした。いこのK氏から電話が入った、もう直ぐ迎えに行くから仕度をしとくようにとの事だ。私は急いで身支度を終えて外に出た、ちょうど車がついた。私を乗せてI夫妻を迎えに行き、其処から中央道へ入り一路、山梨・御殿場を経て沼津にでた。昼食を沼津の漁港内でする事に決めた。車中での会話はもっぱら食べる事・伊豆の景色のことだった。冗談話をしていると沼津に着いた、漁港を探し料理屋に入った。皆、自分の注文したものが一番だと思い込んでいるようだ。

途中、松崎の喫茶店「シャンポール」で一服し下田を抜けて伊豆多賀に着いたのは午後5時近かった。午後6時から夕食なので急いで風呂に入った。食事は、あわび（これは三太郎の奢り）等の伊豆の魚・刺身と食べきれない程に出た。2時間の宴の後は階下のスナックに行きカラオケ三昧をして皆疲れて寝た。

翌朝はいつもの伊東の「山六」で干物を買ひ、河津の桜を観て中伊豆に入り＜湯の国温泉＞に浸り、「いちごプラザ」でいちご大福・鳥釜飯を食べて御殿場の時の栖（すみか）を経て午後8時に八王子に着いた。

＜其の2＞三太郎 多摩川競艇へ

今日は予定が無く、天気も良い。何処か行こうかと相棒の木村氏に電話を入れた。温泉にでも行こうと問い掛けたら、少し寒いから暖かい所に行こうと競艇に行く事になった。直ぐに家を出て、待ち合わせの横浜線成瀬駅に向かった。相棒の木村氏の車に乗り、今から行けば10レースは楽しめるなどと話しながら多摩川競艇場に走った。

競艇場に着くと入場券100円と競艇新聞を買ひ場内へ。お茶を飲みながら競艇の師匠(木村氏)に色々教えてもらった。初戦で2000円を投資し13500円を儲けた。まさしくビギナーズラックだ!!!色々研究しながらレースを重ねた。全体の投資金額を10000円と決めて1レースを2000円程度に賭ける事にした。ギャンブルは楽しみながらやるのがBEST。夕方の最終レースまで遊んで結局投資金額10000円で3000円位儲けた。

帰りに＜横浜温泉＞に入って「香川」の寿司屋であんこう鍋を食べて、知人に送ってもらった。

＜其の3＞三太郎 共同村星の見える丘 倉掛団炉裏小屋へ

朝、飛び起きてS氏と待ち合わせている西八王子駅に向かった。バスの時刻に間に合うと思ったが、信号待ちの分乗り遅れてしまった。間に合わないのでタクシーをひろった。結局5分の遅刻だった、S氏は既に待っていた。S氏の車に飛び乗り一旦彼の自宅によって奥さんと奥さん手作りの昼食を乗せて檜原村に向かった。車を飛ばし檜原村に入ると薄らと雪が残っている。スリッパしないようにユックリ走ってくれと彼に頼んだ。

倉掛団炉裏小屋に着くとS氏・H氏・K氏が作業を開始していた。古民家までの道造りと駐車場造りをしている。かなり進んでいる。私も丸太を運び作業に入った。途中休憩時間を利用して、近所でマイタケの製造販売をしているN氏の所にマイタケを買いに行った。

暫く話をしてマイタケを購入し作業にもどった。夕方まで作業してS氏の車に乗せてもらいくつるつる温泉>に入り、帰宅した。

<其の4>湯西川温泉で雪見酒

午前5時に起床、昨晩は21時半に床に着いたこともあり早く目覚めた。少年の頃遠足に行くような気持ちだ。早朝から親戚の電話があり相談にのっていたが、約束の時間に間に合わなくなるので、早々に切る事にした。

身支度をして急ぎ駅に行く運良く来た準特急に飛び乗り、新宿に向かった。既に、相棒の木村氏は待っていた。合流し、鬼怒川行き特急に乗り込んだ。指定席を予約して貰っていたので席をさがしていると、何と個室であった。途中の駅でもう一人の相棒K氏と合流、昼過ぎに鬼怒川駅に着いた。天気は晴！駅に降りると駅の正面に<鬼怒太>の像がたっていた。

湯西川行きバスの出発時間まで40分程あるので近場を散策していると、手打ちうどん屋があったので店に入った。私と木村氏はそれぞれ注文。美味いまずいのおしゃべりしてそそくさと食べ終わり、湯西川行きのバスに乗り込んだ。バスには、我々のグループ以外に2~3人しか乗っていないなかった。約80分くねくねした山道を走った。

湯西川に入ると、暖冬と云われても雪が積もっていた。宿は<本家万久旅館>という。平家の落人「平忠実」公が落ち延びた頃に築いた館を復元した「平家隠れ宿」だ。平家の太鼓を鳴らして出迎えてくれた。旅館の入り口には大きな囲炉裏があって、炭が赤々と燃えていた。故郷に帰ってようだ。「郷愁」と「日本」を感じた。

少し休んで泊まる部屋に案内された。部屋の名前は「清盛」。窓を開けると雪景色が綺麗だ。自宅を出て5時間程しか経っていないのにずいぶん遠くに来た感じだ。早速、思い思いに温泉に入って、夕食まで過ごした。午後6時に玄関に集合し食事処に案内された。100畳位ある大広間だ。我々以外は若いカップルばかりだった。席に着くと中年の女官の姿をした仲居さんが料理を運んできた。ランプの下で炉に刺した山女&岩魚とふき・ウド・ぜんまい等山川の珍味だ。それらを食べながら、ドブロクを楽しんだ。

木村さんは腹の調子が悪いと先に部屋に帰った。私はもう一人の仲間のK氏と最後まで過ごした。胃袋も充分満たされたので部屋に帰り、それぞれに過ごした。翌朝、温泉に浸かり朝食を早目に食べて、帰路に着いた。

私は午後2時に浅草雷門で、仲間の啓吉と浅草散歩を約束しているので向かった。彼は約束の時間より早目に着いていた。三太郎人形の件で、合羽橋の間屋街を回り、その後食事をしようとかまぐろ人>という回転すし屋に行き、浅草知ったかぶりをしてこの寿司屋のウンチクを披露した。二人とも次々と注文した。何しろネタが新鮮なので美味かった。ワインも何本呑んだのだろう、大分酔っ払った。

次に浅草の有名人「浅草駒太夫」の経営する店に行った。この店は、芸人の溜まり場みたいだ、カラオケもあり歌っていると”店のドアを開けて車寅次郎が「ようー！！労働者諸君」”なんて言いながら入ってきそうな雰囲気である。暫くして店を後にして帰路に着いた・・・途中帰り際にカミヤバーで一杯と啓吉に誘われて呑んだ。心地よく呑んで久しぶりに浅草の風情に浸り、三太郎と啓吉の浅草散歩をしてソレゾレ帰途に着いた。

<其の5>啓吉と浅草へ

急遽、朝日新聞の記者kさんが赴任先から東京に来るといふ。何でも「駅・STATION」の舞台になった増毛（ましけ）駅の記事を<be on Saturday>に掲載した。その記事に、主演の高倉健氏から自記筆の手紙と写真集が送られてきた。社長・編集局長からも賞賛されたのである。本人は若干興奮しての上京となった。私は、早速啓吉に声を掛けた。

この日は、浅草の「吉村平吉（へーさん）」が亡くなって1年になる。その「へーさん」の芝居を劇団にんげん座が上演する事もあり出来るだけ多くの人に声を掛けた。月間浅草の風刺イラスト家H氏・音楽家B氏に声を掛け、会場の両国シアターXで会うことにした。

会場に着くと受付に行き名前を名乗ると、既にチケットと領収書が用意されてあった。芝居は「へーさん」物語、面白かった。時間があつというまに経った。レビューショーもあった。生まれて初めて実物を観た。SKDの花形スターの春日宏美が出演していた。炭焼三太郎としてはタマゲタ・タマゲタの繰り返しだった。会も終わり、K氏を囲んで一杯やろうと両国のギョウザ会館で彼の近況を聞く会になった。もう1軒とB氏の馴染の小料理屋で新年会をして散会した。K氏と私は浅草ビューホテルに向かった。

翌日、朝食でも食べようと外に出たが雨が降っていたのでホテルの中で食べた。食事をしながら今後の事を話し合った。ある結論に達し、K氏は部屋に戻り急ぎの原稿を書き上げて北海道に帰って行った。私は、チェックアウトぎりぎりまで部屋で寝ていた。

折角、浅草にいるので3本立ての映画を観た。その後、銭湯「蛇骨湯」に入り浅草カミヤバーで名物カニコロッケ&ポテトサラダ&サラミを肴に電気ブランをヒッカケて、帰途についた。

<其の6>三太郎 横浜物語

いつも新年は家族と伊豆で過ごしていたが、今年は近場の横浜にすることにした。早目に昼食を終えて、正午前に家族の運転する車で横浜に向かった。正月なので道が混み3時間程かかった。

早速、横浜散策に出掛けた。前々から行きたかった<山手十番館>に行った。館内にある喫茶店に入り席に着いた。この喫茶店は1967年に明治100年を記念して開店したという、明治の洋館を意識して建設された。それぞれに注文をして食べた。私はこのめずらしい洋館の雰囲気を楽しんだ。そして浸った。路を挟んである外人墓地を眺めながら、コーヒーを飲んだ。

<<横浜の味がする>>なーんて！！

暫く過ごし、私は家族と別れて銭湯に行く事にした。夕食の場所を確認し現地集合を約束して別れた。銭湯は港の見える丘公園の下にある山下湯。山下湯まで、人形の家の前を通り歩いた。やっと着いた。しかし、銭湯は休業だった！ガッカリ！！仕方なく来た道を歩き戻った。途中疲れたのでタクシーに乗った。運転手さんに銭湯を教えてもらい中華街の側の銭湯に行った。中々綺麗な風呂でサウナもあり、ユックリ過ごして約束した場所に向かった。

店には横浜に住んで居る親戚が来ていた。この店は、横浜に住んでいる私の遊び仲間、啓吉に紹介され知った。雑誌「おとなの週末・2月号」によると、最近公開された映画「武士の一分」の主演「キムタク」が時折来る店と記載されていた。そうこうしていると家族も集合した。

席に着きそれぞれ好みの飲み物を注文した。料理も次々に運ばれた。みんな久しぶりに会ったので食べながら近況の報告など会話ははずんだ。あつという間に店の閉店時間になっていた。外に出ると夜空に月がクッキリと出ていた。中華街から宿泊する「ヨコハマ・グランド・インターコンチネンタル・ホテル」まで歩いて帰ることにした。中華街を通り抜け、横浜港を眺めながら山下公園を散策。赤レンガ倉庫が夜の帳の中に浮かぶ姿は一生忘れられない。私は幻想的な風景に浸りながらホテルまでの道のりをかみしめながら歩いた。

これが横浜だ！！と思いながら<炭焼三太郎>がこの横浜の風景に感動していると思うと滑稽であった。ホテルに着いた。まだ、感動が継続していることもあり、ホテルのラウンジに行き<ワイン・ビール>をまた呑んで深夜まで酒宴を催した。翌日、朝食と昼食を食べて横浜地ビールの土産を買って家路に着いた。

<其の10>山梨に三太郎現わる！！明野自然塾

今日は、恩方の醍醐山房管理人夫妻と山梨県にある、「明野自然塾」を視察に行く日だ。早速、身支度をして前日に家族が調べてくれた列車に間に合うように家をでた。八王子発の特急あずさに間に合った。少しの合間に朝食稲荷寿司¥260とお茶・雑誌「サライ」を買い座席に座った。雑誌「サライ」の特集は<ふうてんの寅さん>、今日の私の出で立ちは、ズックの靴・帽子・半袖シャツ・リュックと平成版<寅さん>である。

自由席は混み合っていたが、旅という嗜好の時は「金は無いけど心は錦」と言った気分だとグリーン車に座った。この車両は空いていた。早速、買い込んだ寿司を頬張った。一番安い寿司をかい高いグリーン車に座っている、このアンバランス差に笑いが出た。「自遊人炭焼三太郎」に酔いしれている。時折、車窓の風景を眺め旅に来たのだと気分に入る。すぐに甲府を過ぎ目的地韮崎駅に着いた。管理人夫妻はジープで愛犬2匹と一緒に駅に来ていた。

<其の11>山梨に三太郎現わる！！明野自然塾

一路、明野自然塾に向かう。暫く来ていなかったのが道に迷ってしまった。迷走しながらも何とか自然塾に辿り着いた。前に訪れた時と違い、入り口の道路はキチンと整備されていた。塾内の設備（ログハウス・トイレ・2つの炭焼窯）も整備されていた。恩方から持ってきて植えた山椒の木が大きく成長していた。管理人夫妻は、塾を気に入った様であった。

昼食は薬膳料理を食べる事にした、料理を食べながら「田舎生活」談義をした。帰りがけに温泉に入る事にした。温泉から見る景色は素晴らしかった。中で地元の常連客らしい中高年の一人が「明野はヒマワリの里で、日照時間が日本で一番長い」と説明してくれた。

温泉を出て、管理人夫妻の案内でケーキとコーヒーを食べて、明野を後に帰路に付いた。

<其の12>檜原からの帰り道

三太郎はタフで深夜まで起きていたが朝は六時前には目覚めていた。参加者の中には、会社に宿から直接向かう者もいるので、送り出していた。残った者は朝食をとり、九時過ぎに宿を離れた。帰路、仲間のK氏が燻製の食品研究をしたいと言ったので、その道のプロである元法学部教授T先生の家を伺い、レクチャーを受けた。突然の訪問にも快く迎えてくれた。その時、奥様がお茶うけとして出してくれた白菜漬け・聖護院大根の漬物が絶品だった。

作り方を簡単にお聞きした。聖護院大根の漬物は以前自分が病気をしたので塩分を入れず黒酢と三温糖を基本に漬け込む。白菜漬けはやはり塩分を抑えて漬けている、シャキシャキしているほのかな柚子の香りがある。お茶を数度お代りしました。

また、T先生の家周りには竹林がある。山の整備を兼ねて竹炭を焼きたいとおっしゃっていました。<窯がご利用でしたらご注文をお受けいたします。お気軽に言ってください>などと冗談を言って、別れました。

帰り際に薫煙の蔵書を借り、専門業者も紹介してもらいました。K氏試作品食べさせて下さいね！奥様ご馳走様でした！！

途中で、どんぐりの苗を買いに行き100本購入しようとしたのですが、ここ数年どんぐりの種が入手しにくく注文数を確保できるか解らないといわれた。環境の変化が山里に異変を与えていると直感じた。

<其の13>檜原村に出発！！

連休の最後に一泊二日で会議と共同村を見に今年初檜原を訪れた。

共同村に道を造り、窯（竹炭・ピザ・陶芸）を設置する場所を確保したと聞いたから楽しみに向かった。着いてみると聞いていた様にもものすごく整備されて綺麗になっていた。

一番驚かされたのは入り口の門柱だった。オシャレでセンス良く一目で気に入ってしまった。共同村を見て周り、会議をする施設（民宿）に移動した。会議は深い議論を交わし、再度部門ごとに最終方針を導く事にして終了した。（久々に熱気に満ちた会議に私は疲れた。）

皆も疲れていたなので、近くにある「数馬の湯」にツカリ日々の疲れを癒した。夕食をしながらも色々な話が出た。部屋に場所を変えて酒を飲みながら深夜まで話した。

<其の14>三太郎と啓吉の浅草散歩

今日はエコクラブの啓吉と浅草を散歩する日だ。15:00に雷門で待ち合わせだが、早目に出て新宿のラーメン屋でランチをして浅草に向った。伝法院・花やしきを通り抜け、映画を観ようか温泉に入ろうかと考えていた。観音温泉近くだったので温泉に決めた。この温泉は昭和初期に建てられた銭湯で下町には絶妙にマッチしている。入湯料700円を払い薄暗い建物の中に入っていく。初老のおじさんがタオルを貸してくれた。中には5~6人の老人がユックリと湯に浸かっている。皆は顔見知りなのか楽しそうに談笑している。きっと地元老人の社交場の一つになっているのだろうと思った。私も湯船に浸かりこれが浅草だ！！と感傷に慕った。

銭湯を後にして未だ時間が有るので名画座に向う。映画は任侠物・高倉健・鶴田浩二・藤純子・北島三郎が出演する<日本侠客伝>。館内には背広組は殆ど居ない、ジャンパー姿や作業着の人達が多く昭和にタイムスリップした様で懐かしい。作品柄熱気に満ちていた。

待ち合わせ時間になったので、雷門に向う、啓吉は既に来ていた。少し遅れて啓吉のパートナーが来た。ニコニコしていて人懐っこそうな人だと感じた。昼間であるが神谷バーで一杯やる事になった。神谷バーは1・2階が満席で3階に行った。座敷の一番奥に陣取り、河豚を注文した！！当然だが、電気ブラン・ビール・ウーロン茶も注文した。啓吉のパートナーに神谷バーや電気ブランの説明をしながら自己紹介をした。啓吉のパートナーは酒が強い事もあり途中からワインに切り替えた。飲むほどに皆饒舌になり会話は途絶えることなく続いた。いつの間にか、外は暗くなっていた。楽しかったので時間の経つのを忘れた。

このまま散会するのは淋しいこともあり浅草カッパ村の助役H氏に連絡を入れた。自宅に居たので待ち合わせをしてその場所に向った。酔っ払いながら、伝法院・6区を通り抜けて目的地に向った。合流してH氏の紹介してくれた店に入った。店は三橋達也さんの奥さんが経営する店との事。初めは貸切り状態でカラオケを唄っていた。途中から初老のおじさんが女性と入ってきた。酒が入ってきたのかそのお客さんもカラオケに参加してきた。浅草に関する歌が多かった。デイープな浅草を感じた。

この店でも楽しく過ごし22:30頃に散会した。浅草駅で二人に別れ銀座線乗った、寝すぎて渋谷迄来てしまった。井の頭線で明大前、乗り換えて京王線で高幡不動まで行きタクシーで自宅に着いた。午前様になっていた。こうして。三太郎氏・啓吉の浅草散歩は終わった。

＜其の15＞DAIGOエコロジー村

集合場所の高尾駅に向った。今日は、学校の体験教室で炭焼を行なう。先生・助手・生徒15名の炭焼教室だ。移動のバスの中で皆はしゃいでいた。あっという間にエコロジー村に着いた。今日の講師M氏・I氏は準備をしていた。

早速、荷物を降ろし炭焼実習に入った。私は焚火で生徒達のオヤツのサツマイモを焼く係りだ。食事時に生徒が寒くないように焚木をどんどん燃した。子供達は、竹を80cmに切り釜へ詰め込む作業をしていた。昼食時、生徒は家族が作ってくれた弁当を美味しくそうに頬張っていた。

食後に、焼き芋をたべた。昼食後、休憩をして午後の作業に戻った。夕方近くになったので帰り支度をしてエコロジー村を後にした。

＜其の16＞醍醐山房

友人と恩方に向った。山房に着くと焚火をして寒さを和らげた。今日は、山房の床に炭を入れる作業を行なう。M氏・S氏・F氏が集合し作業を開始した。厚いビニールシートを敷き詰め炭を乗せていった。

＜其の17＞環境霊園へ

久しぶりに環境霊園に行く事にした。喫茶店コナに着き、定番のランチを注文した。相棒の木村氏は既に来ていた。10日間ぶりなので互いに近況報告し、課題を霊園に行き話した。その後横浜温泉に行き、DAIGOどんぐり銀行町田支店長のI氏と夕食をして帰途に着いた。

＜其の18＞DAIGOエコロジー村

5:30に起床。7:30に身支度を整え恩形に向う。山房の改修工事の進捗をみて、木屑があるので焚き火をした。次にエコロジー村に行き囲炉裏に火をつけて、ユニオン東村山の青年部の人たちが来るのを待った。11:00頃に到着。早速、ユニオンのH氏の司会で勉強会が始まった。簡単な自己紹介などをして、炭焼の講義をした。炭焼の歴史・成分・種類等90分に渡って勉強して散会した。

＜其の19＞共同村星の見える丘 倉掛いろり小屋へ

檜原に向うので朝早く起きた。身支度を済ませて電車・バスで五日市駅に向った。駅には”かわうそ倶楽部”というかわうその復活を目指して水と森の保全を考える会の代表M氏とY氏と待ち合わせている。駅に着くと早速携帯電話が鳴った。彼等とは初対面なので私に合図してくれた。彼等の車に乗り込んで倉掛に向った。

車中で互いに自己紹介をした。二人とも環境問題に熱心である。環境の事やカワウソの事を話し

ていると車は標高850mの倉掛に着いた。現地には未だ誰も来ていない。少しするとH氏が来た。皆で近くにある檜原まえたけセンターに行きまえたけを買った。

H氏が焚き火をしてくれて暖を取っているとA氏夫妻H氏夫妻・元地主のH氏が前後して到着した。全員が揃ったので、早速皆で購入した土地を見に行った。ケモノミチよりキツイ勾配を歩き目的地に着いた。歩いた所に目印の紐を所々に結びながら5箇所を見て回った。半世紀程ほったらかしの畑なので既に山林の一部となっていた。初めは口数も多かったが次第に皆黙り込んだ。

15:00位まで見て周り、“かわうその会”の二人と<数馬の湯>に入って、五日市駅で別れた。途中、日野駅で待ち合わせていた某自動車会社の社長と一杯飲んで帰った。

<其の20>醍醐山房改装中に発見した！！

今年になり、毎週日曜日に恩方の醍醐山房を改修工事している。工事を行なってくれるのは、友人のK氏だ。現状で70%程進んでいる。

その日は恩方農業改善センターで杉の花粉対策のセミナーがあり八王子の山林地主が集まった。顔を出して、山房に向った。今日は台所の床張り替えの工事を行なっていた。部屋の窓を全開にして換気し新鮮な空気を入れた。作業と平行して片付けを行なった。古い資料を整理していると懐かしい新聞のスクラップが出てきた。

<<平成14年9月29日(日)>>日本経済新聞である。

歌壇に元八王子市長の波多野重雄氏が私の事を次の様に詠んでいた。

「職引きて故郷の山に炭を焼き「炭焼三太郎」と友は名乗りぬ」そして高野公彦氏はこんな生き方もある。と選評していた。

波多野元市長は故飛鳥田一雄元社会党委員長や故山花貞夫先生共、進行が厚かった。私も議員時代は熱く共に八王子の市政を議論した間柄だった。しばし当時を思い起こしていた。当然だが作業は中断している、再び作業に戻り16:00頃まで一気に行なった。帰路の途中でDAIGOエコロジ一村に立ち寄り、助役のKW氏と打ち合わせをして八王子まで戻り<いなり湯>に浸かり帰宅した。

<其の21>三太郎・女房と飛驒高山への旅行

雪の白川郷に行く企画があるので参加したいと女房から誘いがあった。日程も空いていたので参加する事にした。企画内容は、白川郷-高山-平湯を訪ねる一泊二日のバス旅行である。

朝9:20京王八王子駅前に集合して出発した。中央自動車道で松本を抜け上高地を通過し白川郷に向った。昼食は車中で食べた、上高地を過ぎた辺りでトイレに行きたくなったが車内にトイレが無く、近くにSAも無かったので7転8倒の苦しみを味わった。特に大の方なので苦しみは一層激しい。恥ずかしいやら辛いやらで、席でうずくまってしまった。その状態で、時間の経つのを忘れさせようとしたがダメ！！隣の女房に話し添乗員にSOS発生と告げてもらった。添乗員が席まできてSAまで少しだから其処まで待ってくれと告げられた。それから、40分位走った。やっとSAに着く。一目散にトイレに駆け込んで用を足した。私の後、15人程がトイレに行ったので恥ずかしさは半減した。

<もうバス旅行は懲り懲りだ、帰路は電車にしようと思った。>すっきりしてバスの旅は、17:00に白川郷に着いた。雪の白川郷のライトアップは17:30からなので白川郷を散策した。1軒の喫茶店を見つけ其処に入った。甘酒・干し柿・飛驒牛の串焼きを食べて、村長の家に向った。家には可也の人が訪れていた。列に並び見学した。村内のライトアップされている所を観て回った。

中でも寺院の山門が印象に残った。2時間の村内散策が済むとバスに乗り高山市内の宿に向う。

車中で夕食を食べて20:00過ぎに旅館に着いた。風呂に入り、ホテルのバーに行き二人で一杯やって部屋に戻り床に着いた。翌日は朝食を食べて来た道をバスで戻った。途中平方に寄って17:00に八王子に無事に着いた。

＜其の22＞三太郎氏 環境霊園へ！！

今日は、＜環境霊園緑の里＞近くにある喫茶店コナでNPO法人日本エコクラブの役員会を開く事にしている。私は、5年前に21世紀は自然エネルギー時代にならねばならないと思い、横浜市緑区に環境霊園構想を思い立った。霊園内で使う電気は、風力・太陽光で起こした電力でまかない。管理棟の床下には、湿気・通気のために2トンもの炭を敷いた。霊園の周囲にはドングリと山栗の木を植え二酸化炭素を減らす。トイレはバイオマストイレを設置した。仏花や生ゴミ処理は、堆肥になる装置を設置した。いわゆる、21世紀型エネルギーの見本となりえるコンセプトで作り上げた。最近、新エネルギー財団の教科書に紹介された。

思いの深いこの地でエコクラブの役員会を開き今年度の組織作り・財政の確立について論議して午後4時近くに散会した。

＜其の23＞三太郎氏！！月島へ

久しぶりに、昔の仲間から連絡があり共通の友人夫妻と、4人で”旨い寿司をご馳走してくれる”と言うので、月島に向った。昼頃に家を出ていつも行く＜やすらぎ湯＞に行き、湯に浸かり軽く昼食をとり・仮眠をして、夕方に特急かいじで新宿に行き大江戸線で月島に向った。

駅から目的地の”とびきり寿司”（有名な寿司屋だと聞いていた。）を目指して歩いた。特急で来たのだが、待ち合わせ時間に30分弱遅れてしまった。既に、皆は集合して私を待っていてくれた。客の中に、漫談のかしまし娘の1人が居た。私達は、久しぶりに会ったので近況など語り合った。友人の一人は、5月に仕事でU.S.A.に行く事や去年の8月に”風の盆”の時期に富山に行った事などを話した。別の友人は、今年で定年になる事。私は、毎日サンデー・24時間自遊人の生活を披露した。あっという間に21時を過ぎていた、ハイヤーを呼んで家路に着いた。

＜其の24＞炭焼三太郎、、、作詞家デビュー！！

作曲家の”敏とし”サンが「俺達・炭焼三太郎」の曲が出来たので試しに聴いてくれないかと、連絡があった。この歌は私が数年前に書いた詩に”敏とし”サンが曲を付けてくれた。完成した曲を聴く場所を設定して欲しいというので、DAIGOエコロジー村にした。

高尾で待ち合わせてタクシーで醍醐山房へ向い一息入れて、醍醐山房と・DAIGOエコロジー村を案内した。敏サンは前々からエコロジー村を見たいと言っていたので調度良い機会だった。囲炉裏を囲んで炭焼き仲間が集まって談笑をしている。私達も仲間に入った。敏サンが持ってきた炭焼三太郎のテープを取り出し皆に披露した。皆は誉めてくれたが、実際はどうなんだろう？！！？タクシーを待たせて居たので足早にタクシーに乗り＜やすらぎの湯＞に向った。此処に敏サンは宿をとる。チェックインを済ませて、湯に入った。腹が減ってきたので、近くにある”鳥王”と言う焼き鳥屋に向った。

店主のオヤジは相変わらず”飲む””打つ””買う”の三拍子を実践している元気者でそんなオヤ

ジに不満を抱いている女将さんがコンビで店を盛り上げていた。名物の鶏の唐揚げと焼き鳥を食べた。敏さんも満足してくれたようだ。飲み足りない様なので、西八王子近くにあるスナック”ダコタ”に向った。ここは、5階建てのビルにあって、カラオケやスタジオも完備している。早速、敏さんのテープをユックリと聴く事ができる。途中で従姉弟を拾ってきたので試曲を歌ってくれた。まあまあとの評価を受けて一応この曲を1曲目と決めた。

曲名は<俺達・炭焼三太郎> カップリング曲は未定！

<其の25> 燻製作りで伊豆・弓ヶ浜へ！！

午前10:30に友人S氏と合流し東京駅に向った。東京駅から踊り子号乗って伊豆下田へ出発！！途中の横浜駅で啓吉と合流しメンバーが勢揃いした。私は、早速に東京駅で買い込んできた駅弁<東京弁当>を二人にご馳走した。

この弁当は旨い！兎に角旨い！遅い時間に買いに行くと売り切れになってしまう。弁当の中身は明治28年創業の浅草今半の牛と筍の時雨煮・大正時代に創業した魚久のキングサーモン粕漬け・昭和24年創業の築地すし玉青木の玉子焼き・明治33年創業の日本橋大増の野菜の旨煮。百余年もの伝統で守りつづけていた「粋な江戸の味」の弁当である。

下田までの車中は弁当の話と炭焼三太郎の歌<俺達・炭焼三太郎>の話題だ。この曲を二人に聴かせた、二人は上出来じゃないかと言った。列車は一路！下田へ。15時ごろに下田に着いた、駅前の店で今晚の晩酌用のワイン・日本酒・つまみを購入し弓ヶ浜休暇村行きのバスに乗り込んだ。ユックリと進む車窓の風景は南伊豆に来たと実感させた。バスから降り16時に弓ヶ浜竹炭クラブに着いた。

オーナーのM氏に挨拶し目的と行程を説明して、町営の<みなと湯>に浸かった。塩泉なのでイツもよりも大量の汗をかいた。夜は下田に行き地元の漁師達が集まる魚の旨い店で食事をして、夜はM氏の経営する貸しペンションに宿泊し、南伊豆の振興について夜遅くまで議論して疲れ果て床に着いた。

<其の26> 弓ヶ浜 二日目

早朝6時に起床した。二人は昨日の深酒のせいはまだ寝ている。私は1階の居間に行き、まだ寒いのでストーブを焚いた。日記を書いていると、オーナーのM氏が今日のイベントの準備をはじめた。雨の予報ではあったが曇りで何とかもっている。8時頃に二人は起き出してきた。朝食を食べてソレゾレがイベントの準備にかかった。

M氏が考えたドラム缶を改造して創り上げた薫製機(写真)は見た目にカッコよい、絵になっている。薫製機を囲んでテーブル・椅子・パラソルを並べている。食材は、チーズ・ソーセージ・秋刀魚の干物・鴨(丸・半身)・金目鯛のヒラキ・豚スペアリブ等が用意されている。盛りだくさんでいい感じだ。

啓吉はM氏のアシスタントとして炭火を起こしたり荷物を運んだり、竹でお皿を作ったりと働いている。11時頃にイベントが始まり、参加者の1人にカメラマンさんが居た。人なつっこくユーモアある人だ。暫くすると、M氏の友人や漁師の人が集まってきた。イベントも燻製の味も良い調子だ、皆満喫しているようだ。13時位まで続き14時には帰り仕度を整え、下田駅に行き、踊り呼号で東京に向った。

<其の27>醍醐山房リホーム

朝5時半に起床。天気は晴！！醍醐山房に運ぶ荷物の仕度に掛かる。9時にS社長が軽トラックで迎えに来てくれた。今日の目的は、醍醐山房に荷物を運び込み生活できる状態にする事。次に、生活物資の調達である。

まず、庭園灯籠を買いに行く事にした。量販店に行ったが気に入った物が無く醍醐山房に戻り積荷を下ろし、五日市の木材店に預けてある木材を積み込み、途中の量販店に寄って庭園灯籠と冷蔵庫等の電化製品を買って山房に戻った。途中で腹が減ったので<里>と言う季節料理屋に寄って、私は玉子丼・S氏は味噌カツ定食を食べた。

荷物を運び入れて片づけをしていると夕方になった。今日の作業は切り上げて家に戻った。途中で銭湯によりゆったりと汗を流し、自宅で夕食を食べてぐっすり寝た。